

- 三、濱田労働代表一行動靜報告
- 四、伏木組合出張、新設
- 五、定期總會及大會議題
- 六、海事法令調査委員曾經過報告

◎第六回評議員會

十二月二十七日

出席者 四十一名委任出席者百六十三名  
 決議事項 一、會計、事業、人事報告

- 二、アジア労働會議々題
- 三、労働代表一行歸朝歡迎
- 四、海事法令調査委員曾經過報告

◎第七回評議員會

昭和五年三月五日

出席者 四十七名委任出席者百八十四名  
 決議事項 一、會計、事業、人事報告

- 二、國際運送労働組合聯盟加盟

議

日本海員組合昭和四年第七回評議員會は海運の國際性と海員生活の移動性との間に極めて密接なる關係ある事に鑑み又海員の労働條件を改善しその福利を増進するためには他の産業に比し一段と國際的協力を要する事に鑑み一九二九年十月二十六日佛國トアリーに於て日本海員組合長濱田國太郎氏とITF主席エドワード・フィンメン氏との間に加盟に關し數項に亘る質疑應答を交したる後全部完全なる意見の一致を見たることを考慮し滿場一致異常なる欣喜と熱意とを以てITFに加盟することを決議す

- 三、政治運動方針確立(保留)
- 四、購買部伏木増設
- 五、昭和五年度大會議題審査委員
- 六、第十四回國際労働總會代表委員選出
- 七、海事法令調査委員曾經過報告
- 八、失業調査

○郵司同友會及CK研究クラブ合同聲明書

今や我國に於る資本主義の生長發達は他國に於ると同一の過程を経て窮弱自壞の最後段階に到達せんとしつつある。此時に於て資本家群によつて示さる、社會的必然は彼等の焦燥であり、攻勢であり、逆襲である。海上に於て又然り。

この彼等の絶對的逆襲に對望する爲め我等労働階級に残されたる唯一の道は大衆的合従であり階級的連衡でなければならぬこれ我國に於る海陸労働運動界に於て常に戦線の統一、陣營の集合が稱導せらるゝ所以であり又實踐的に日本海員組合を中心